



2020.02.24 尾道市御調町・菅野地区「柿の里」

広島県尾道市、御調町・菅野地区
鳥のさえずりと風の音しか聞こえない、この静かな山頂に小さな里山があります



で始まる柿の里。延々細い山道を登って
行った奥に工房とカフェが姿を現した。



林。カフェでは柿ピザも食べさせる。高台のカフェからの眺望は桃源郷にふさわしい。大きなテーブルを囲んだカフェ店内には、いつまでもいたくなる時が流れる。



立ち去りがたい静かな時間に別れを告げる。

菅野は、お正月に縁起物として供える「串柿」を全国に届けていた。江戸時代から370年続く尾道市御調町の一大特産品だった。

最盛期には、青く澄み渡った秋空と、紅葉に染まった中、軒先や庭先に、串刺しされたオレンジ色の「柿の実」のカーテンがズラリと並び、息をのむような美しい風景だったという。近年放置されてた100年を超える渋柿の木。その青柿は防腐・防水・防虫・抗菌効果の高い染料。



水にも流せる無害のEco製品として着目した宗康司氏（尾道柿園代表）は、勤めを辞め故郷の復活を目指した。

柿渋だけでなく、食べて美味しい柿木を植

宗氏からは、単に柿渋の活用を図るといふより、かつての里山をとり戻し、多くの人びとにその良さを感じてもらい地域づくりを感じる。

カフェで出すピザ窯

